2023年8月5日　　バガヴァッド・ギーター勉強会

・朗誦：第16章11節～第16章20節

・勉強：第5章21、24～26節、第6章15、20～21節、18章37節、第2章72節

みなさん、おはようございます。

どうですか、暑い、夏ですから暑いは普通ではないですか？

暑い暑い何回言っても涼しくならないです。しょうがないですから、できるだけ我慢する。

また冬のときとても寒いときまた我慢です。いっぱい雨がふります、普通の人はもう十分、ある人は雨が好き、農夫は雨がほしいのにサラリーマンは違う。神様は混乱します。もし私が神様だったらもっと良いやり方を準備します。自分の家族を３人４人喜ばすのも難しいです。会社の社長も難しい、国の大統領も難しい、神様はどれだけ難しいか考えてください。

１つの物語があります。前にお話ししたかもしれません。いろいろ勉強会があり、いろいろな場所に行きますので、どこで話したかわかりません。１度聞いたけど、もう一回聞いてもいいでしょう。

**ある物語**

ある若い人、お酒を好きになって、ときどき飲んでいました。隠れて飲んでいました。父母に見つかるととても叱られます。

あるとき、お父さんは見つけました。そのお父さんはインドのお父さんです。伝統がありますからお酒は飲まない。お父さんはとても怒っていました。息子はまた飲みたいので、もっと大変気をつけて飲み始めました。半年ぐらい見つからなかった。

ですけれど、また突然見つかりました。とても大変お父さんは怒っていました。叱られて息子は何も答えませんでした。最後に息子は言いました。

お父さんは叱り疲れました。それを見て、息子は、「お父さん、あなたはお酒を飲んだことありますか」

お父さん「絶対ない、一度もない」

息子「あなたに頼みがあります。最初の少しお酒を飲んでください。お酒の味を知らないで私をいっぱい怒っています。あなたが少し飲んでから、私にやめなさい言うなら私は絶対やめます。」

お父さん「そうですか、少しだけ」味のためにちょっと飲みました。

「知らなかった、こんなに美味しい！とは。 息子よ、あなたはやめたいならやめてもいい。

私は、飲み続けたい。」

聞いたことありますか、この物語。皆さんは聞いたことないですね。

どうして、バガヴァッド・ギーターとこの物語、何が関係ありますか、お酒を飲む？、混乱の可能性がありますね。

５章２４節を見ましょう。



ヨーンタハ・スコーンタル・アーラーマス　タターンタル・ジョーティル・エーヴァ　ヤハ/　サ　ヨーギー　ブラフマ・ニルヴァーナン　ブラフマ・ブートーディガッチャティ

***内なる世界で幸福を味わい、心穏やかに過ごし、光り輝く行者こそ、ブラフマンとなり、永遠の絶対安楽境***（ブラフマ・ニルヴァーナ***）に入るのだ。 //5-24***

アンタ・スカ

アンタ・アラーマ

スカ＝歓び・楽しみ、は、中（なか）に　あります。

この節には２つの歓び・楽しみの要点があります。

１つは、普通の歓び・楽しみと比べて、もっといっぱいの永遠の歓び・楽しみです。

普通の楽しみは始まりも終わりもあり有限です。

ですけれども、ある種類は、永遠で無限。限度がなく永遠でずっと続きます。

もう１つは、その源は中です。

同じことを何回も聞いても歓び・楽しみの、ある種類の歓び・楽しみがあります。

それは、世俗的楽しみに比べて、いっぱい、偉大な、永遠、無限です。

問題は、聞いてもやる気がでないこと。どうして？ それを味わった経験がないですから。

普通の快楽の経験ありますけど、その種類の歓び・楽しみの経験はないですから、やる気がでないです。もしあったら、さっきのお父さんと同じこと。初めてそれをすこし味わったら、私は続けたい、でしょう。皆さん、お酒を飲んでください、と言っているのではないので、誤解しないでくださいね。

霊的な歓び・楽しみを経験したいなら、お酒などその種類を辞める、抑制する。食べ物、飲みもの、毎日の生活についてみんな適度にする。

霊的な歓び・楽しみは味がないです。ですから、どのようにやる気になりますか。お酒は買ってすぐ飲むことができますけど、霊的な永遠の楽しみ、至福、それのためにやる気はどのようにできますか。その方法は、その種類の講話を何回も何回も聞いて、聖典を何回も読んで、何回も勉強して、自分の心にそれを教える。それに比べて普通の楽しみはとてもとても小さい、と。

そして、あなたは偉大な歓び・楽しみ、永遠の歓び・楽しみを理解して、それに従ってください。

最終的に自分の心に教えないといけないです。

「ゴールドラッシュ」の映画、チャップリンの「黄金狂時代」ありますね。それで、その場所にゴールドがある、と聞いただけ。その場所に行くのにお金がかかりますね。自分のお金をいっぱい使って、遠いところまで船で行って。最初はゴールドをみていないでしょ。聞いただけです。これと同じことです。その種類の霊的な歓び・楽しみがある。ある、ある、あると自分の心に教えます。そうして、やる気が出ます。

もう１つはバジャーナンダ。神様の歌を歌って聞いて、その種類の霊的な歓び・楽しみの経験が少しできます。

もう１つは瞑想。深い瞑想です。集中して長い時間瞑想すれば出来ます。神様の、遊び、性質、クリシュナの物語などを思い出します。それも瞑想です。神様の遊びをずうっと心の中に思い出しますとけっこうできます。ラーマクリシュナ、イエスのそれをよく読んで居いて、瞑想の時それを思い出しますと、霊的な歓び・楽しみできます、少しだけの経験ができます。

そうないと一回聞くだけではやる気は出ない。やる気が出ないとみんなのレベルが上がらないです。また苦しみ悲しみが続きます。

人間の命で生まれた一番大事な目的はそれです。そうしないと１００％無駄になります。感覚の楽しみは動物も同じです。動物と人間は何が違う。我々は知性がありますから、それも違います。美しい歌を聞いて、動物だけでなく木もよろこんでいます。その種類の経験もあります。ラーマクリシュナミッションのブリンダーバンやベナレスでは、雌牛のため歌を流します。雌牛の気持ちがよくなります。気持ちが良くなりますと牛乳が出ます。本を読んだり新しい物を作ったり、それは動物にはできません。非利己的になって、困った人をお世話すると楽しみになります。

その種類の歓び・楽しみは普通の快楽とは全然違います。霊的な歓び・楽しみを、もし神様の歌を深く聞いて考えますと、神様の遊びを考えますと、歓び・楽しみが出ますでしょう。

また例えばクリシュナのとても面白い遊びがありますね。それを瞑想のとき思い出しますと、霊的な歓び・楽しみがもちろん出ます。そのように霊的な歓び・楽しみの経験が出来ます。

この至福の経験を得るためのやる気が出るのためには、何回も何回も説明を聴く必要があります。

これの源は中です。それも心に教えます。本当の喜びは外ではない、中にあります。

**ミディアム**

直接アートマンから至福が出ます。もう１つはミディアムから食事とか感覚の対象から出ています。ミディアムは日本語で媒体です。

すべての快楽の対象がミディアムです。その快楽の対象の源も本当はアートマンです。ミディアムから来ますと限定されたものです。時間と空間に限定されますので、本当のものは出ないです。

例えば電気の源ありますね。遠いところまで送電線で流れています。そのとき電気は少し減衰していますね。ミディアム、即ち媒体を通したら、源から遠く離れると量も少なくなります。且つ、コンディション、時間と空間に限定されます。

ここで、考えてください。ミディアムもブラフマンではないですか？　総てはブラフマンからきます、源から直接の霊的な歓び・楽しみ・至福はもちろん、ミディアムから出た快楽それもブラフマンではないですか？ 総てはブラフマンですから。そうしましたら何が違う？

その違いは、本当のブラフマン、アートマンは限定されたものではない。

ブラフマンがアラワレますと、アラワレたものは限定されます。マァヤー※ が入り限定されています。ブラフマンがマニフェストしますと、トリグナ、時間、空間に限定されます。歓び・楽しみも限定されます。それが違いです。

　※マァヤー＝マーヤー　音韻は頭高ではない。アクセントはヤーにあるので注意。録画音声でご確認ください。

**タイッティリーヤ・ウパニシャッド**

普通の感覚のよろこび楽しみには、粗大な楽しみも、精妙な楽しみもありますね。霊的な歓び・楽しみは一番精妙です。良い素晴らしい本を読んで知的に楽しみます。それも精妙です。スピリチュアル歓び・楽しみはもっともっと精妙で、且つ永遠と無限です。

普通の感覚のよろこび楽しみと、霊的な歓び・楽しみ即ち至福との量はどのくらい違うのでしょうか。タイッティリーヤ・ウパニシャッドの中に基準があります。天国のレベルがいろいろあります。天国の一番下のレベル、もっともっと上のレベルあります。天国の一番下の喜びはいっぱいですけれども、その歓喜の100倍が天上のピトリ等の歓喜の一単位、その100倍がデーヴァ等歓喜の一単位、その100倍が〜…そして、天国の一番上の歓喜の100倍がブラフマーの歓喜の一単位の歓喜楽しみです。１０段階レベルがあります。全て１００倍かけます。

一番最高界がブラフマーローカです。

 ・参照）『ウパニシャッド』第７章タイッティリーヤ・ウパニシャッド P114~P115

 ・参照） 2017年12月23日（土）ウパニシャッド（第20回）講話まとめ P10~

・検索方法）日本ヴェーダーンタ協会ホームページ ＞ 各勉強会 講話のまとめ ＞ ウパニシャッド2017 ＞ 2017年12月23日ウパニシャッド-20 カタ・ウパニシャッド

Brahman　(ブラフマン)　　偉大な魂、絶対の真理

Brahmā 　(ブラフマー)　　創造の神　クリエイションのブラフマー　アラワレて宇宙を創造

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　☜マーを伸ばす

Brahmā-loka（ブラフマー ローカ） ブラフマー 界

※ブラフマンとブラフマーの音韻は、発音時の開口の仕方と母音生字の発声法が異なりますので、HP映像と音声でご確認ください。

ブラフマーのローカが天国の最高です。歓び・楽しみも一番です。ローカは界、場所です。　ブラフマンは意識ですからローカは出来ないですね。ブラフマー ローカ（ブラフマローカ）はアラワレて居る天国の界の最高です。

霊的な歓び・楽しみ至福は、ブラフマローカの歓び・楽しみよりももっと大きいです。その種類のそれは天国のブラフマローカにいく人のそれより大きいです。どなた、どの種類の人のそれですか？ Srotriya、Akama-hata (板書を参考)です。

1. Srotriya

 スロットリアは耳で聴くです。聖典のこと先生の教えを耳で聴いて覚えて居ました。昔は書く習慣も道具もなかったです。Srotが耳。ベーダのことをいっぱい聴いた事がある、 いっぱい勉強した人、それから何回も何回も聴いて勉強して学者になりました。とても深く勉強は出来ました。

一方はそれで終わらない、シルシがあります。ブラフマンを、真理を、悟りました。ベーダの学者はたくさん居りますけど彼らはブラフマンを悟っていないです。大きな違いがあります。例えばある学者はインドについていっぱい勉強しました、けれども、インドに行ったことがないです。一方ある種類の人はインドについてそんなに勉強していない、本も書いてない、本も読んだことない、でも行ったことがある。ある人は寿司、お好み焼き、お酒、音楽のこといっぱい聞いていますけど、お寿司食べたことない、お酒飲んだことない、音楽聞いたことない。お寿司なら日本に来ないと食べる経験が出来ないです。

いっぱい聞いても学者になっても未だ悟っていない。悟っていないですから霊的な歓び・楽しみ至福の経験がないでしょう。スロットリアは真理を悟って居る人。神、ブラフマンを悟っている、その種類の人です。

1. A-Kāma-hata

　カーマは欲望。カーマの影響で我々は死んでいるみたいです。本当に生きるには、欲望いっぱいありますと、その種類の人は本当には生きていないみたいです。イメージしてください。無知がある無知がないを。無知がありますとその種類は生きて居ても死んでいるみたいです。プレーヤとスレーヤが２つありますね。プレーヤがいっぱいだったら、好きなものがいっぱいだったら、皆さんは道徳的な道を歩くことできないですね。いつも、なりたい私と現在の私のギャップが大きいです。なりたい私とは欲望がほとんどない私、現在の私は欲望いっぱい。ギャップを無くしたい。そうしないと本当の幸せは安定した幸せはできないです。カーマがある間、欲望がある間、執着がある間、絶対、心は静かにならないです。あれも欲しい、これも欲しい、それを得るためにいっぱい仕事しないといけないですね。その様に皆さん動いて居りますでしょう。ほとんどカーマを満足する為にです。欲望いっぱいありますと叶えたいですから。ある願いが叶っても新しい欲望が生じますね。それを繰り返して続けてます。

その種類は死んでいる状態です。

本当の人生、本当の生きるとは何ですか、カーマが無しの状態、クローダが無しの状態です。総てコントロールできます。その種類の人がリアルヒーローです。

**ダシャラタの話**

ダシャラタはラーマ神様のお父さん、とても力強い王様です。自分でも武力がとても力強い王様と考えていました。インドでは一番高いポジションは王様ではないです。聖者です。王様も聖者が来ますと立ち上がって敬礼して挨拶をします。

ある聖者が来て、ダシャラタに尋ねました。あなたは自分のイメージがとても強いですね。質問があります。あなたの中にいろいろ感覚があります、心があります、それをコントロールできていますか。カーマ、クローダ、ローハ、肉欲、怒り、欲張り、コントロールできていますか。聖者に嘘を使ってもすぐに分かりますね。ダシャラタは内省しました。聖者は言いました、あなたは弱い。なぜなら、自分の心、欲望をコントロールできていないから。あなたはカーマで死んでいる状態です。

ア・カーマはその反対の人です。欲望無し、執着無し。己の感覚と心のコントロールが100%できて居る人です。

その種類人の歓び・楽しみは、ブラフマローカに入る人のそれよりも大きいです。

①スロットリア ②ア・カーマ・ハタ 、この話をどうして話しているか解りますか。

やる気の為です。そして重要なことは、そのものは、中（なか）にある、でしたね。

その種類の至福の源は中にあります。

バガヴァッド・ギーター 5章-21節 を見てください。

同じアイデアです。何回も何回も出てきます。



バーッヒャ・スパルシェーシュ　アサクタートマー　ヴィンダティ　アートマニ　ヤット　スカム/サ　ブラフマ・ヨーガ・ユクタートマー　スカン　アクシャヤン　アシュヌテー//5-21

***外界の感覚的快樂に心惹かれることなく、常に内なる真我の楽しみに浸っている人は、常に至高者に心を集中し、限りなき幸福を永遠に味わっている。 //5-21***

アートマニ。中からです。アートマンから出ています。

次に、6章-20節



ヤットローパラマテー　チッタン　ニルッダン　ヨーガ・セーヴァ　ヤー　/ヤットラ　チャイヴァートマナート　マーナン　パッシヤン　アートマニ　トゥッシヤティ//6-20

***ヨーガの実習によって心を完全に支配しえた時、真の平安は得られ、自我の中に真我を見いだすことができたとき、自我は真の満足を味わうことができる。 //6-20***

(チャイヴァ)　アートマ ナート　アートマーナン　(パッシヤン)　アートマニ。

これも、中。外ではないです。



スカム　アーッテャンティカン　ヤッ　タド　ブッディ・グラーッヒャム　アティーンドリヤム/　ヴェーッティ　ヤットラ　ナ　チャイーヴァーヤン　スティタシュ　チャラティ　トットヴァタハ//6-21

***その境地にある人は、普通の感覚ではなく純粋の知性によってのみ感じ得る最上の歓喜を味わうこととなり、真理から決して離れることはない。 //6-21***

ブッディ、インドリヤ　でもない、超越したもの。歓び・楽しみの源は、感覚でも知性でもない。超越したアートマンです。感覚と知性を超越したもの、アートマンです。普通の歓び・楽しみは感覚と知性のそれです。その種類ではない。それを超越しています。超越しますと何が存在？　それはアートマンです。アートマンから歓び・楽しみが出ます。



ヤッ　タド　アグレー　ヴィシャム　イヴァ　パリナーメームリトーパマム/タッ　スカン　サーットヴィカン　プロークタム　アートマ・ブッディ・プラサーダ・ジャム//18-37

***初めは毒薬のように苦しくても、終わりには甘露となるような、真我を悟る清純な知性から生じる喜びは、サットワ的幸福と言われる。//18-37***

スカ。 サーットヴィカン・スカの源どこですか、アートマンからです。普通の知性でない、アートマンの関係があるブッディ知性です。中（なか）です。タッ スカン サーットヴィカン プロークタム 　アートマ・ブッディ ・プラサーダ・ジャム。



ヨーンタハ・スコーンタル・アーラーマス　タターンタル・ジョーティル・エーヴァ　ヤハ/　サ　ヨーギー　ブラフマ・ニルヴァーナン　ブラフマ・ブートーディガッチャティ

***内なる世界で幸福を味わい、心穏やかに過ごし、光り輝く行者こそ、ブラフマンとなり、永遠の絶対安楽境に入るのだ。 //5-24***

ブラフマ・ブータ、 その種類の人は、

ブラフマ・ブータ ブラフマ・ニルヴァーナン ディガッチャティ。

ブラフマンになります。中から歓び・楽しみ。アートマンから遊ぶ。中から知識出ます。その知識ですべてを理解できます。その種類の人は何の状態になりますか。ブラフマンになります。私はブラフマンになります、という考え方。それが、ブラフマ・ブータ、ブラフマンになりますの意味です。

**ブラフマ・ブータ ブラフマンになる**

ブラフマ・ブータ。この言葉には集中すべきポイントがあります。ブラフマンもあります、私もあります。私はブラフマンになりました、存在が２つです。一つはブラフマン、もう一つは私、の２つです。

それについて２つの疑問質問が生じます。

前の私はブラフマンではありませんでしたか、今ブラフマンになった？

すべてはブラフマンですね。ですから、矛盾です。

ブラフマンになりました、前は別々、ブラフマンではなかったけど、今、成りました、？

最初は苦しみばっかり、今は楽しんでいます。これは理解できます。矛盾ではない。２つは別々の状態です。前はお腹ペコペコでした、いっぱい食べてパンパンになりました。これも２つ状態です。昔貧乏でした。今はお金持ちになりました等。

この意味で、私はブラフマンに ビカム,なりました の意味ではありません。

前はブラフマンでした、今もブラフマン、後でもブラフマンです。

何が違いますか、

前も今もブラフマンですけれども、無知の影響で気づきがなかった。ブラフマ・ブータの状態は新しい状態ではない。無知がありましたから気づきがなかった。気づきが出た。それだけです。

前からお腹いっぱいでした、その気付きありませんでしたとは言わないでしょう。気づきは関係ないです。

いつも私はブラフマンです。無知の影響で気づきがないです。悟った後気づきが出てます。それだけ、その意味です。前気づきがなかった。今気づきがあります。無知は永遠ではない、前はなかった。いつ入りますか分かりません。いつもそして今も我々はパラダイスに住んで居ります。しかし、気づきがなくなりました、気づきを失いました。無知の影響で。無知がなくなりますと気づきがでます。パラダイス・ロスト？どこに堕落するのでしょう。どこからどこへ堕落するのでしょう。どこでもがマザーの膝の上です。堕落とはある場所からある場所に落ちることでしょう。どこにでもマーザーの膝ですから堕落できないです。とてもヒンズー教は面白いアイデアです。

以上がブラフマ・ブータ、　ブラフマンになります、の説明です。

次はブラフマン・ニルヴァーナについて説明します。

**ブラフマン・ニルヴァーナ**

最初はニルヴァーナを理解しましょう。仏教でとても有名な言葉です。

Nirvāna、仏教の聖典のなかにいっぱい出ています。お釈迦様はそんな複雑でなかった。あとの学者が複雑にして説明しました。深く勉強していない学者は考えでは、昔ヒンズー教の聖典にニルヴァーナなかった。お釈迦様がニルヴァーナを使い、それからヒンズー教で使ったと考えています。絶対間違いです。１００％間違いです。たとえばバガヴァッド・ギーターはお釈迦様よりずっと前です。

バガヴァッド・ギーターの中にニルヴァーナたくさんでてきます。

２章７２節　４７ページ



エーシャー　ブラーフミー　スティティヒ　パールタ　ナイナーン　プラーッピヤ　ヴィムッヒャティ/スティットヴァーシヤーム　アンタカーレーピ　ブラフマ・ニルヴァーナム　リチャッティ//2-72

***プリター妃の息子よ！これが絶対真理と合一する道で、これによって一切の迷妄が消え去るのだ。したがって、たとえ臨終の時にでもこの心境になる人は、必ずや涅槃の境地に入ることとなる』と。//2-72***

５章２４，２５，２６節　今読んでいるところですね。



ヨーンタハ・スコーンタル・アーラーマス　タターンタル・ジョーティル・エーヴァ　ヤハ/　サ　ヨーギー　ブラフマ・ニルヴァーナン　ブラフマ・ブートーディガッチャティ

***内なる世界で幸福を味わい、心穏やかに過ごし、光り輝く行者こそ、ブラフマンとなり、永遠の絶対安楽境に入るのだ。 //5-24***



ラパンテー　ブラフマ・ニルヴァーナム　リシャハ　クシーナ・カルマシャーハ/チンナ・ドヴァイダー　ヤタートマーナハ　サルヴァ・ブータ・ヒテー　ラターハ//5-25

***罪穢れを清め、あらゆる疑いを取り除き、自我を抑制し、生類全ての幸せのために働く聖者もまた、永遠の絶対安楽境へと入っていく。 //5-25***



カーマ・クローダ・ヴィユクターナーン　ヤティーナーン　ヤタ・チェータサーム/アビトー　ブラフマ・ニルヴァーナン　ヴァルタテー　ヴィディタートマナーム//5-26

***光は物欲肉欲をなくし、自分の心を抑制し、自己の本性を知った行者もまた、この世でもあの世でも、絶対安楽境に永住する。 //5-26***

６章１５節



ユンジャン　エーヴァン　サダートマーナン　ヨーギー　ニヤタ・マーナサハ/シャーンティン　ニルヴァーナ・パラマーン　マト・サンスターム　アディ ガッチャティ//6-15

***このように、体と心と行動を常に統御するヨーガの実践者は、ついに涅槃の境地へと進み、私と合体して永久の平和を得るに至る。 //6-15***

**仏教とヒンズー教の違い**

お釈迦様最初にニルヴァーナ使った、間違いです。

ニル(Nir) 　無し

ヴァーナ 欲望、苦しみ、悲しみ、執着

Nirvāna　欲望無し、苦しみ無し、悲しみ無し、執着無し

全部、無し、無し、で説明しています。パタンジャリ・ヨーガスートラのチッタ・ブリッティ　ニルォーダハも然り。心の波ブリッティをストップします。あるとき恐れの波、あるとき心配の波、あるとき欲望の波、あるとき執着の波、ありませんか。波ばっかりですね。その波が無し。それがニルヴァーナです。

一方、オスティ、あるもの、何がありますか。絶対の完全な静けさの状態があります。

最高の平安、幸せ、絶対の最高の静けさ、解脱があります。

ヒンズー教と仏教のコンセプト何が違う？、仏教は無し無し無し。何が在る？ 言葉で説明が難しい、それが ニルヴァーナです。ヒンズー教では、ウパニシャッド、ギーターも、無しと在るのイメージの両方があります。何が無し、それもあります。何が在る、それもあります。それでは無い、無い、無い、もあります。サッチダーアーナンダも在ります。永遠の至福、永遠の存在も在ります。幸せも在ります。神の知識、普遍的な愛も在ります。

仏教のイメージとして、

スンヤタ（Shunyāta）　エンプティ　空　。

ウパニシャッドの中にはプールナタもあります。プールはイングリッシュのフルと同じです。いっぱいの意味です。ヒンズー教はイメージが包括的です。（マントラ朗誦）

お釈迦様の言う事は無し無し無し、本当はそうではないです。最高状態を有限の言葉では説明できないから、非、非、非と間接的に説明しています。

ヒンズー教のなかにはスンナタもありますし、プールナタもあります。

悟りのとき、何のイメージで？、両方合わせても出来ますね。ブラフマンについて、ネーティ、ネーティ、ネーティ、無し無し無し、オスティ、オスティ、オスティ、在る在る在る、両方あります。

バガヴァッド・ギーターのときニルヴァーナの単語だけでは使っていないです。いつもブラフマン・ニルヴァーナと、言葉を合わせて使っています。どうしてですか。それはニルヴァーナだけを使いますと、空っぽ、何も無しのイメージが出ます。ですからブラフマンと合わせて使っています。ブラフマン、アートマンとの関係がありますから。何も存在に非ず、でもブラフマンは實在ありますから。それが面白いですね。

次のクラスのとき、ブラフマン・ニルヴァーナについて説明します。生きている間解脱、もう一つは亡くなった後の解脱について説明します。